

報道関係者各位

プレスリリース

平成 29 年 1 月 25 日
株式会社インフォコーパス

インフォコーパス、SensorCorpus 用に「仮想センサー」技術を開発
～大量・複雑なセンサーデータをリアルタイムで分かり易く「見える化」～

株式会社インフォコーパス（代表取締役 CEO：鈴木潤一、本社：東京都目黒区、以下インフォコーパス）は、エンタープライズ IoT プラットフォーム SensorCorpus 用に「仮想センサー」を実現するための技術として、センサーデータ・ストリームプロセッシング(以下、「SDSP」)を開発しました。

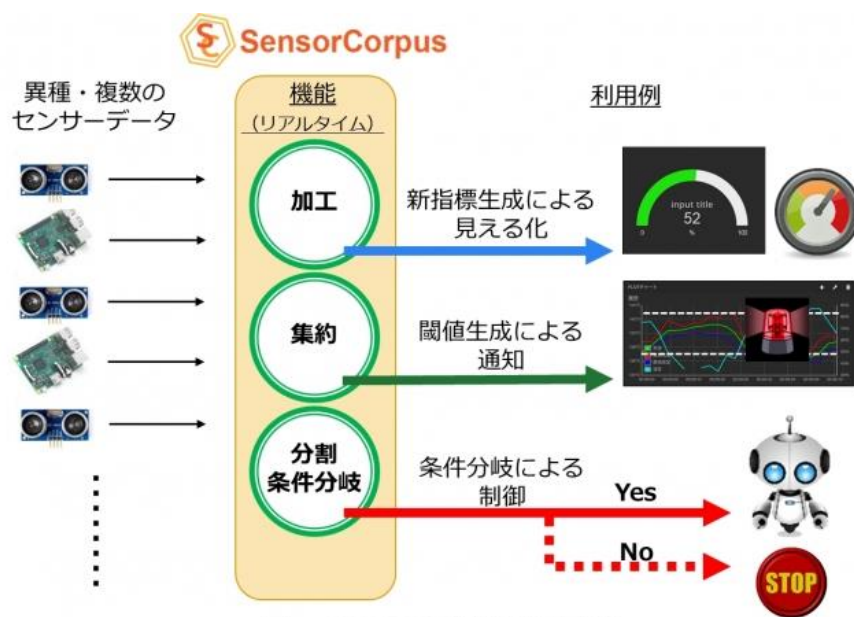
SDSP は大量かつ多種類のセンサーデータを統合・集約し、1つのデータに仮想化して、理解しやすい指数の作成や異常値の自動判定、特定条件下の状況判断等をリアルタイムで行うものです。SensorCorpus 利用者は、システム開発を新たにする必要なく、さまざまなセンサーによる複雑な現象をリアルタイムで「見える化」や制御できるようになります。尚、この機能は 2 月 1 日より SensorCorpus オプションサービスとして提供します。

SDSP の基本機能は以下の通りです。

1. センサーデータの加工：複数種類のセンサーデータから新たな指数を生成します
(例：湿度、日射、温度データから熱中症対策の暑さ指数を自動生成)。
2. センサーデータの集約：大量のセンサーデータを集約することで、平均値や閾値を自動生成し、異常検知の信頼性を向上させます。
3. センサーデータの分割：条件分岐により、データの選別やデータ経路の変更を行う等、特定条件下での状況判断を行います。

4. アルゴリズムの実装：上記 1~3 を組み合わせた個別アルゴリズムを実装することができます。

SDSP の利用にあたっては、コンサルティングによる事前調査及びアルゴリズムの実装に関してカスタマイズが必要となります。将来的に、SensorCorpus と組み合わせた統合開発環境 (IDE) を提供する予定です。



【本件に関するお問い合わせ】

株式会社インフォコーパス

担当：田名瀬

Tel：03-5734-1830

Email：contact@sensorcorpus.com